

平成22年3月期 第2四半期決算説明会

平成21年11月16日



株式会社 **DTS**

<http://www.dts.co.jp/>

目次

1. 平成22年3月期 上期実績
2. 平成22年3月期 通期見通し

本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来の売上高および利益などの予想数値は、業界の動向を含む経済情勢、お客様の動向など、現時点で入手可能な情報をもとにした見通しを前提としておりますが、これらは、種々の不確実な要因の影響を受けます。したがって、実際の売上高および利益などは、本資料に記載されている予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

1. 平成22年3月期 上期実績

業績実績(単体)

(単位：百万円、%)			前年同期比	当初業績 予想比
	金額	売上比		
売上高	16,066	—	83.7	91.3
売上総利益	1,606	10.0	50.6	57.8
営業利益	97	0.6	6.5	8.3
経常利益	261	1.6	15.2	19.9
四半期純利益	188	1.2	19.4	24.3

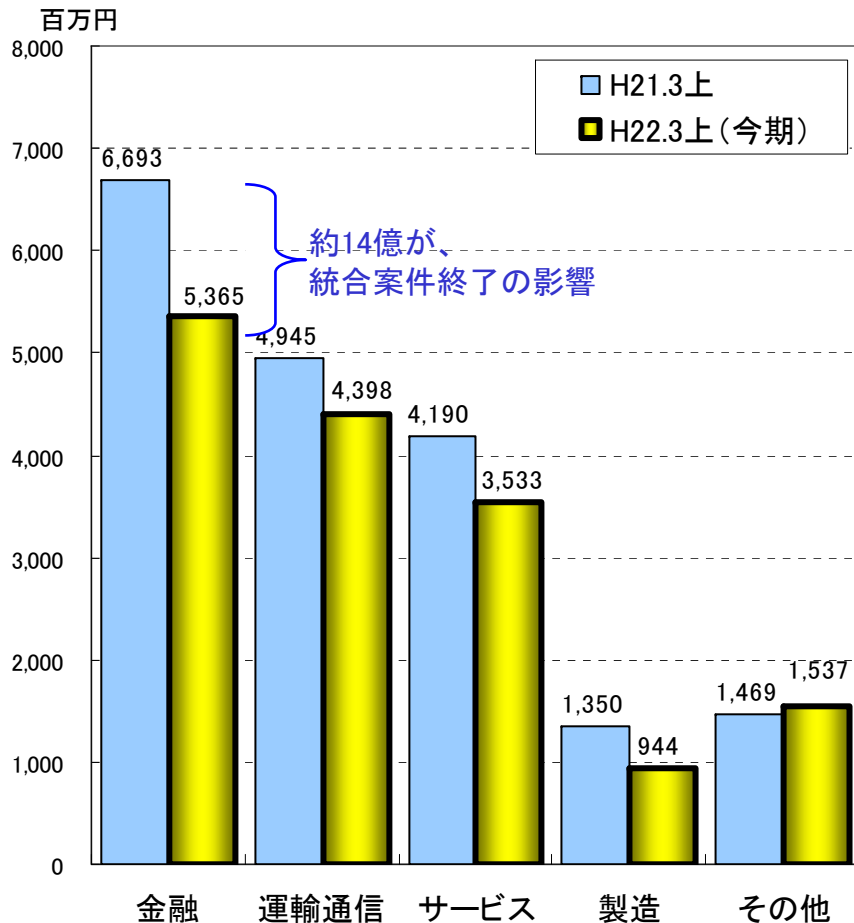
売上高・品目別(単体)

景気悪化に伴うシステム投資減少、統合案件終了により
主にシステム売上が減少

(単位：百万円、%)	金額	売上比	前年同期比	当初業績 予想比
情報サービス	15,777	98.2	84.6	91.2
システム	10,419	64.9	82.7	90.1
オペレーション	5,358	33.3	88.6	93.3
プロダクト	288	1.8	52.4	96.2
売上高 計	16,066	100.0	83.7	91.3

売上高・エンドユーザ業種別 (単体: 情報サービス)

**金融業向けの減少は統合案件終了の影響
公共向けは好調**

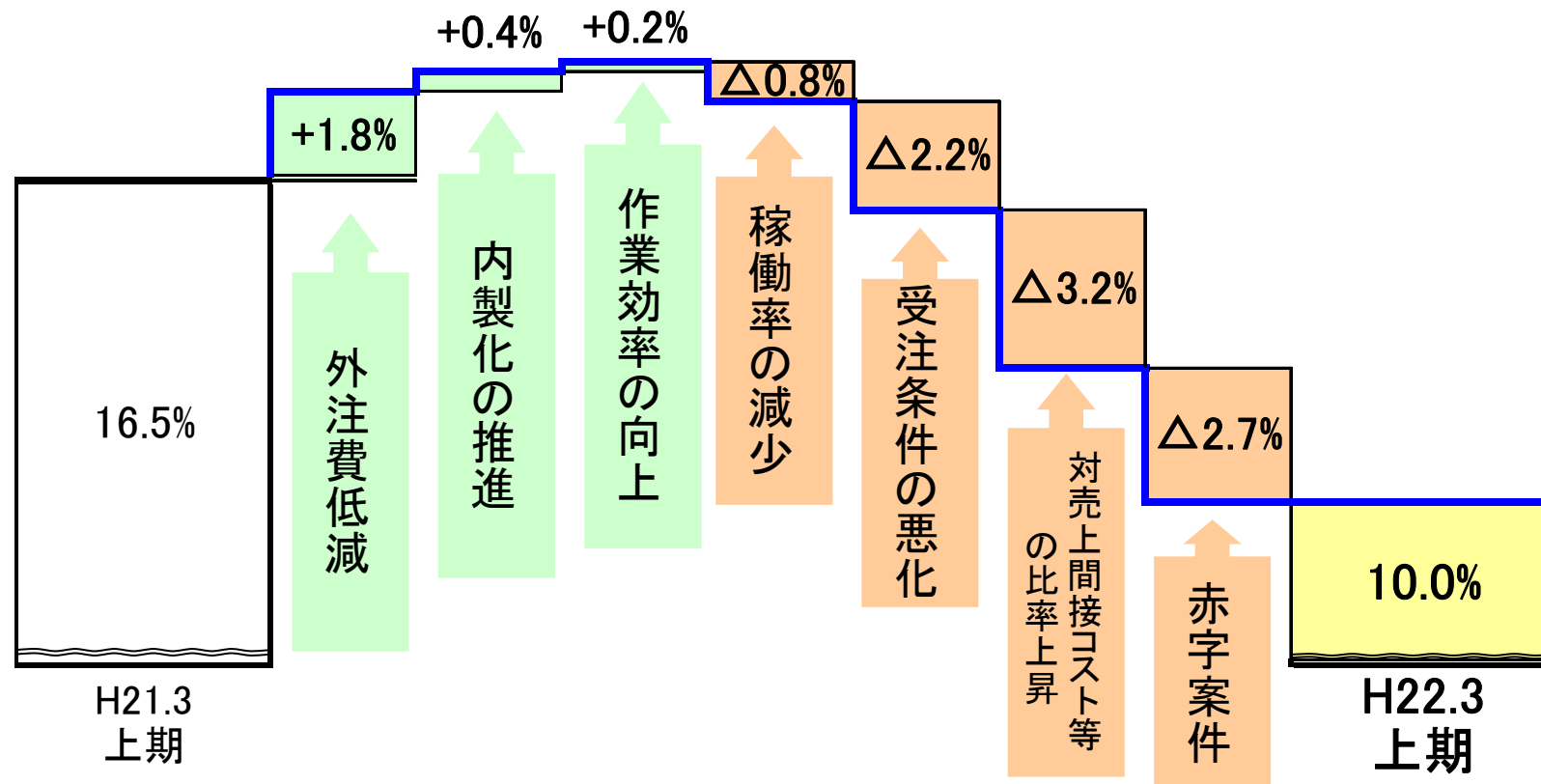


- 金融業 (前年同期比 80.2%)**
 - ・前年同期の統合案件終了が大きく影響
 - ・金融業向け次期案件は伸張し、統合案件終了の影響を除くと前期比プラス
- 運輸通信業 (前年同期比 88.9%)**
 - ・一部キャリア向け案件が減少
 - ・次世代通信網案件は堅調
- サービス業 (前年同期比 84.3%)**
 - ・昨年度下期以降の投資抑制の影響で減少
- 製造業 (前年同期比 70.0%)**
 - ・特定顧客向け案件が減少
- その他 (前年同期比 104.7%)**
 - ・公共向け好調

売上総利益 (単体)

①対売上間接コスト等の比率上昇、②赤字案件、③受注条件の悪化等により、売上総利益率減少

売上総利益 1,606百万円 (前年同期比50.6%、売上比10.0% (前年同期比△6.5pt))



営業利益、経常利益 (単体)

経費削減により販管費は大きく減少
戦略的費用の活用は計画どおり実施

販管費 1,509百万円 (前年同期比90.1%、売上比9.4%(前年同期比+0.7pt))

経費削減の取組みによる減少等	△181百万円
戦略費用の増加(新規ビジネス等)	+16百万円

営業利益 97百万円 (前年同期比6.5%、売上比0.6%(前年同期比△7.2pt))

営業外損益 163百万円 (前年同期比75.0%、売上比1.0%(前年同期比△0.1pt))

受取配当金の減少等	△54百万円
-----------	--------

経常利益 261百万円 (前年同期比15.2%、売上比1.6%(前年同期比△7.3pt))

四半期純利益 188百万円 (前年同期比19.4%、売上比1.2%(前年同期比△3.9pt))

業績実績（連結）

(単位：百万円、%)

	金額	売上比	前年同期比	当初業績予想比	連単倍率
売上高	25,269	-	84.8	93.6	1.57倍
売上総利益	2,823	11.2	57.4	68.5	1.76倍
営業利益	74	0.3	4.2	6.4	0.76倍
経常利益	177	0.7	9.4	14.9	0.68倍
四半期純利益	△264	-	-	-	-

・販管費 2,749百万円(前年同期比87.7%、売上比10.9%(前年同期比+0.4pt))

・特別損失 244百万円(内部取引における過年度未実現利益修正 他)

業績実績(グループ各社)

(単位：百万円、%)

社名	売上高			営業利益			
	金額	前年同期比	当初業績予想比	金額	売上比	前年同期比	当初業績予想比
データリンクス	4,571	104.3	109.0	170	3.7	111.4	139.5
日本SE	2,352	79.7	91.9	△274	-	[△147]	[△30]
FAITEC	2,311	86.6	101.0	168	7.3	59.2	86.4
総合システム サービス	506	71.1	81.1	19	3.8	22.0	86.8
九州DTS	491	82.1	91.0	13	2.8	74.3	50.3
MIRUCA	205	95.5	98.6	38	18.8	55.2	206.3
アスタリクス	62	384.3	96.4	0	0.6	[+43]	[+0]

各社単体の数値であり、すべてを合計しても連結の数値とは一致しません。

[]は、当期金額－前期金額

成長に向けた取組みと成果(1)

■ SI体制の進展

□ インフラ構築力、ハード調達力の強化

⇒ 「デジタルテクノロジー社」の

一部事業譲受け(12/1予定)

SI提供力の強化

コンサル、アプリケーション開発

DTSグループ

保守・運用

デジタルテクノロジー社(SI事業)

インフラ構築、ハード調達

成長に向けた取組みと成果(2)

■ SI体制の進展(続き)

□ 開発、運用プロセスの国際標準化

⇒ CMMILレベル5達成に向けた取組み開始(H23.3達成予定)

□ オフショア体制

⇒ 中国BP2社(上海、大連)に資本参加

⇒ ベトナム連携強化

□ 高度スキル人材の育成

	H20. 3中	H21. 3中	H22. 3中(当期)
⇒ 外部資格	170. 0%	178. 4%	197. 6%
⇒ 社内認定	384名	578名	960名

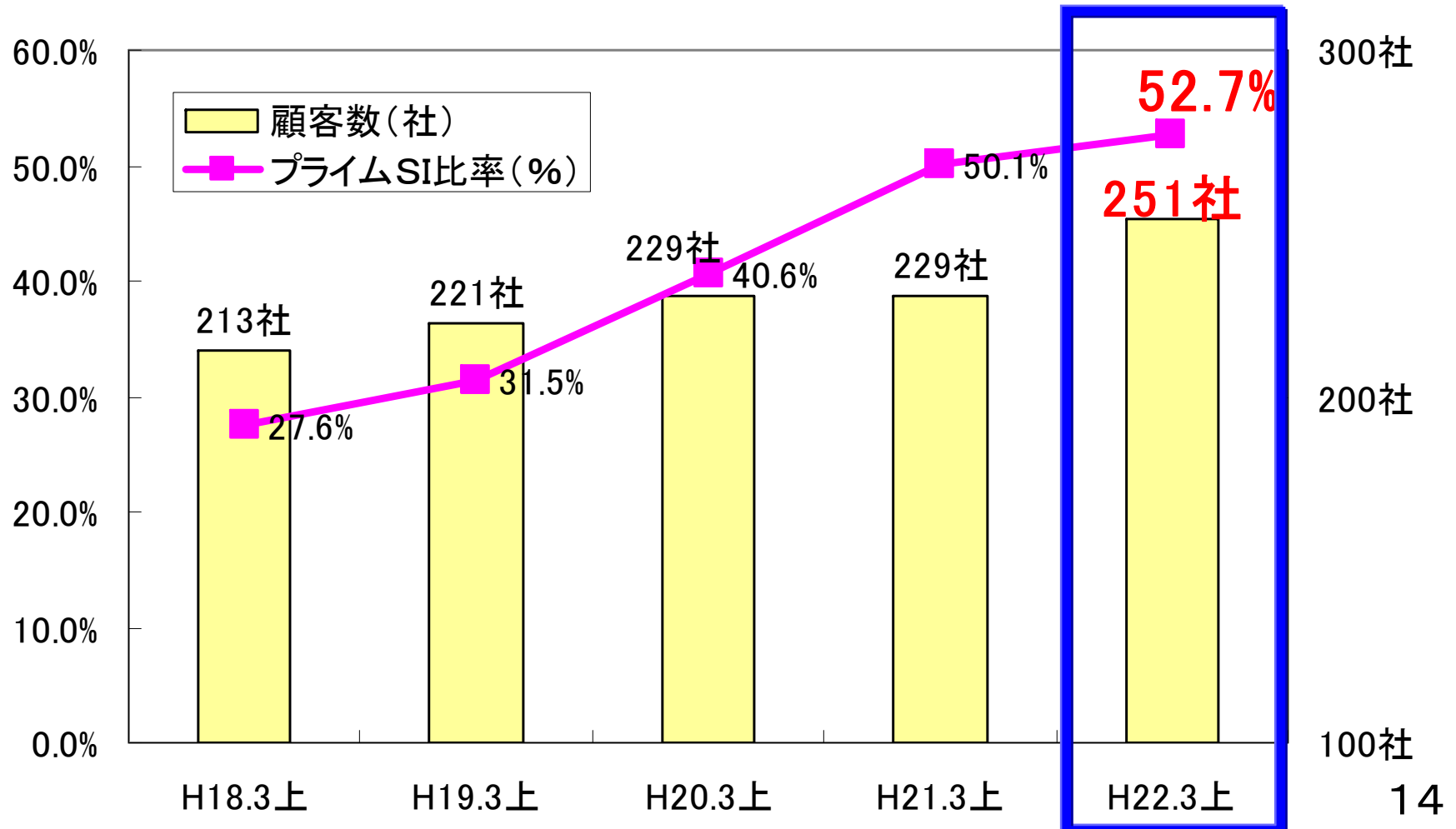
成長に向けた取組みと成果(3)

■新規ビジネス(プレスリリース)

7/31	インフォテリアとASTERIAマスターパートナー契約を締結、SaaSビジネスとの連携強化
8/3	BIツール「データスタジオ@WEB Ver.2」を発売
8/25	ID統合管理システム「Jix@s(ジクサス)」を発売
9/1	位置情報管理システム「iZCOM(イズコム)」を発売
9/15	三菱東京UFJ銀行の「営業店一時預かり管理システム」を構築、他金融機関へ展開

成長に向けた取組みと成果(4)

①プライムSI比率、②顧客数(売上計上先)
ともに着実に伸長



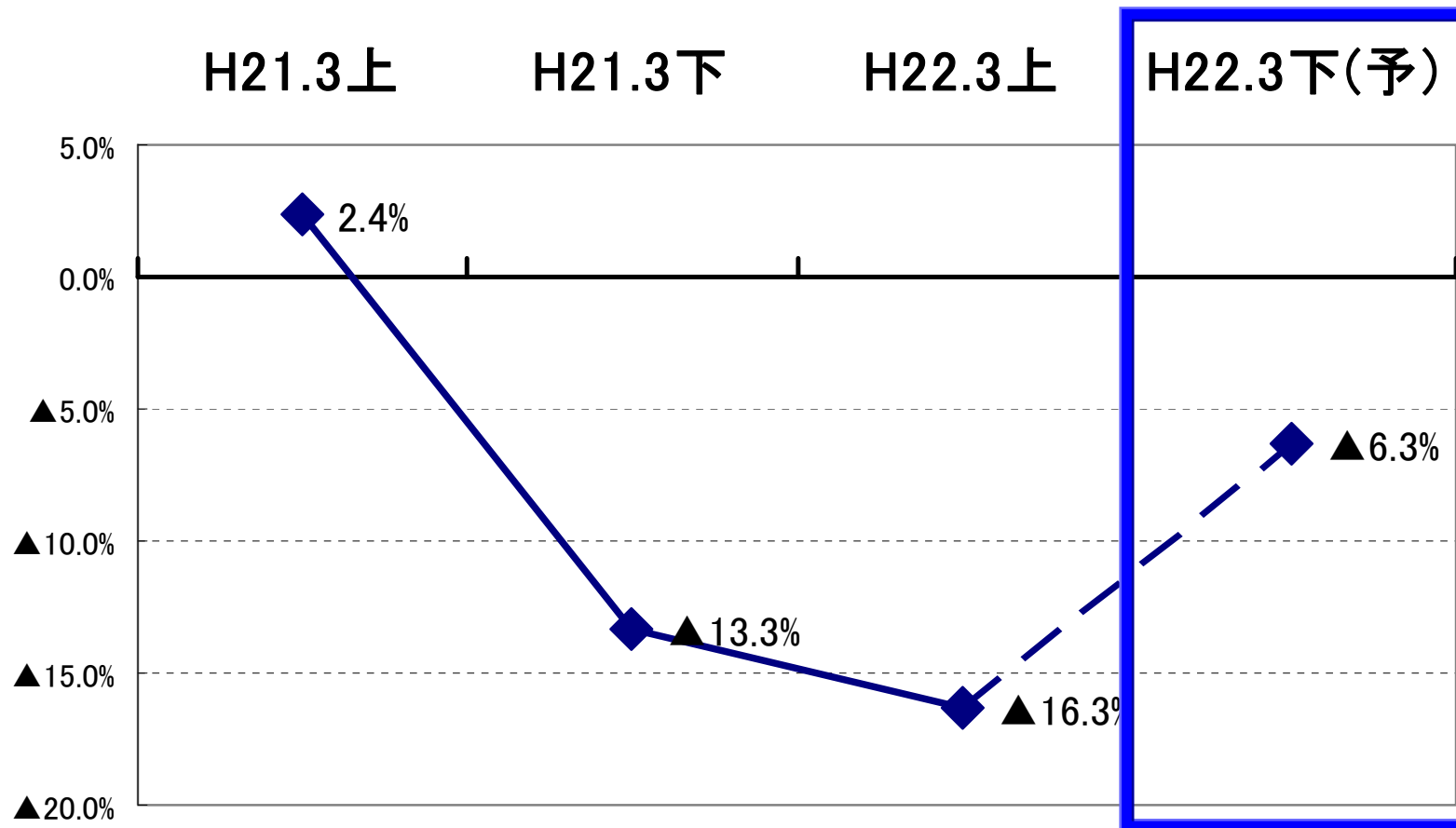
2. 平成22年3月期 通期見通し

当社を取り巻く環境(下期)

- 顧客企業の業績は、上期はコスト削減努力等により回復傾向にあるものの、今後については、慎重な見方が大勢を占める
- システム投資については、依然慎重な姿勢を崩していないものの、一部業種・顧客の中長期的な成長へ向けた戦略的投資が顕在化
(単金のダウンや顧客における内製化は一段落)

売上高・下期計画 前年同期比(単体)

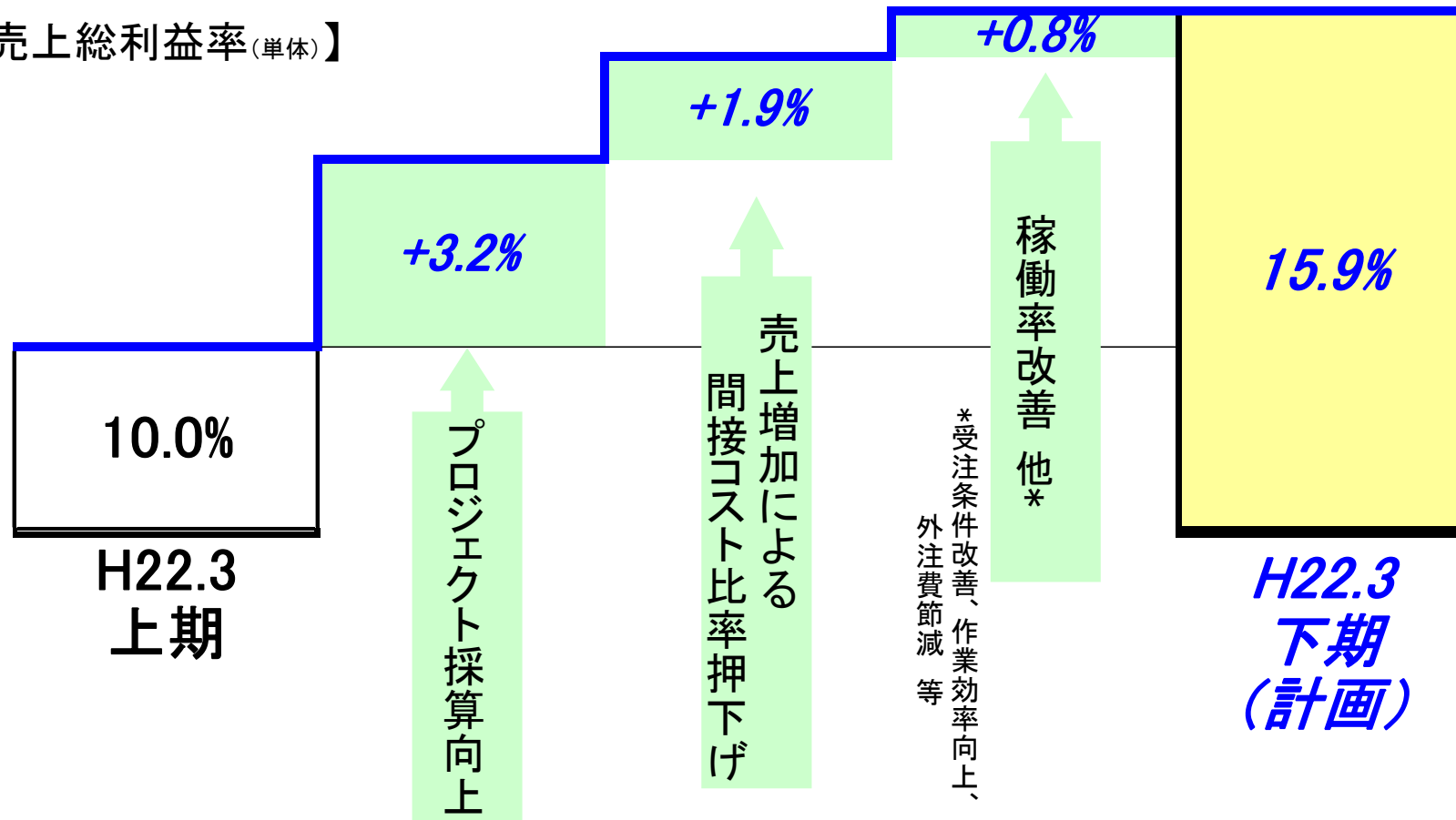
大型案件の本格化等により金融業向けが牽引し、
下期売上高は回復の方向(前期上期は統合案件有り)



利益率の下期計画－売上総利益率(単体)

- ①プロジェクト採算向上、②売上増加による間接コスト比率押下げ、
③稼働率改善 等により売上総利益率を改善

【売上総利益率(単体)】



下期計画(単体・連結)

単体の利益率改善により、利益水準を改善

単体

連結

(単位：百万円、%)

	単体			連結			
	金額	売上比率	前年同期比	金額	売上比率	前年同期比	連単倍率
売上高	17,934	—	93.7	26,530	—	87.9	1.48倍
売上総利益	2,843	15.9	98.3	4,476	16.9	94.3	1.57倍
営業利益	1,152	6.4	93.7	1,425	5.4	84.1	1.24倍
経常利益	1,179	6.6	92.7	1,493	5.6	87.4	1.27倍
四半期純利益	682	3.8	114.7	734	2.8	109.8	1.08倍

通期計画(単体・連結)

単体

連結

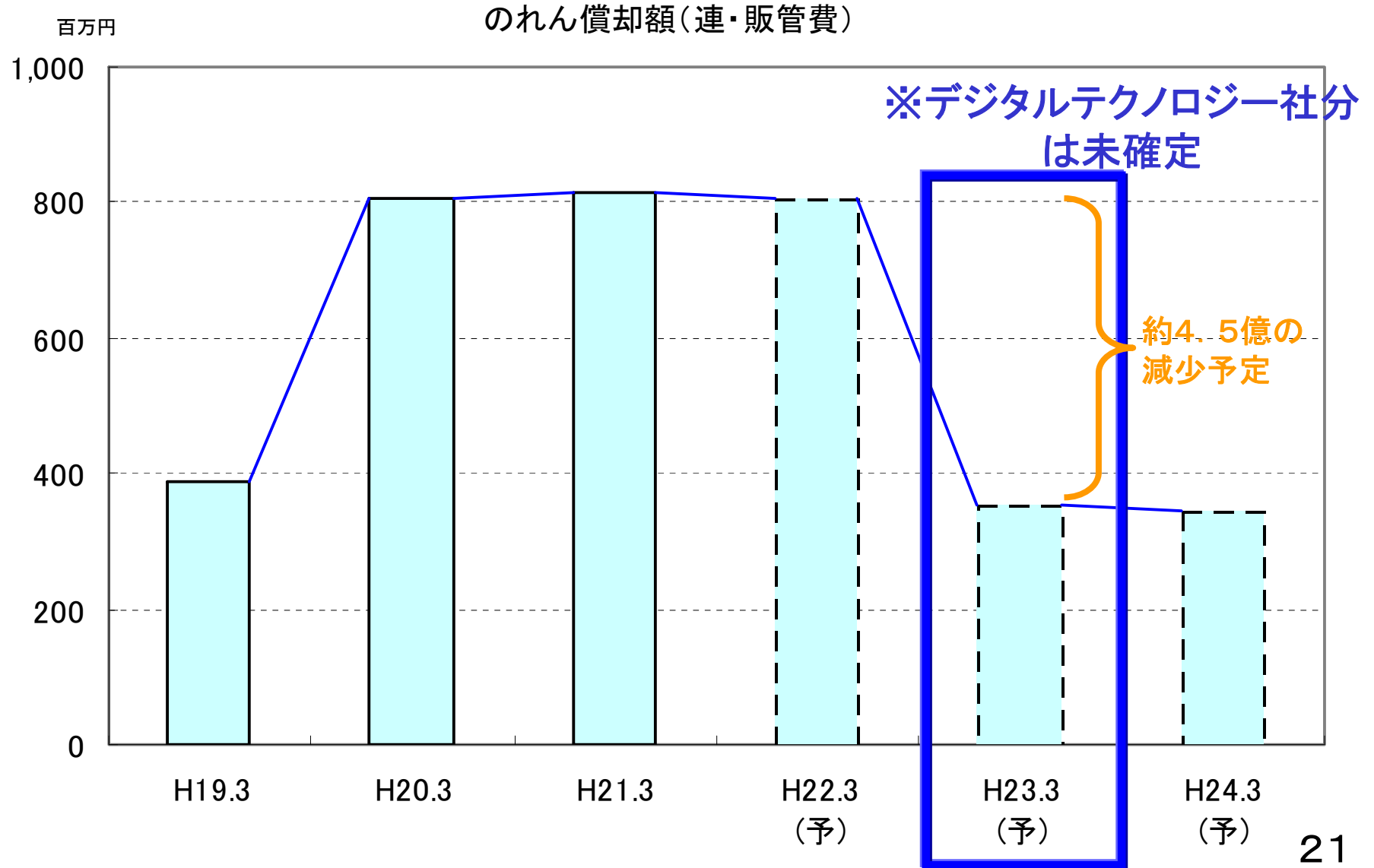
(単位：百万円、%)

	単体			連結			
	金額	売上比率	前年同期比	金額	売上比率	前年同期比	連単倍率
売上高	34,000	—	88.7	51,800	—	86.3	1.52倍
売上総利益	4,450	13.1	73.4	7,300	14.1	75.5	1.64倍
営業利益	1,250	3.7	45.8	1,500	2.9	43.1	1.20倍
経常利益	1,440	4.2	48.2	1,670	3.2	46.5	1.16倍
当期純利益	870	2.6	55.7	470	0.9	31.0	0.54倍

連・販管費 5,800百万円(前年同期比93.8%、売上比11.2%(前年同期比+0.9pt))

※内、のれん償却額 807百万円(※次頁参照)

参考)のれん償却額の推移



通期計画(グループ各社)

(単位：百万円、%)

社名	売上高		営業利益		
	金額	前年 同期比	金額	売上比	前年 同期比
データリンクス	8,203	92.1	280	3.4	71.7
日本SE	4,978	82.3	△274	-	[△142]
FAITEC	4,700	84.8	392	8.3	67.5
総合システムサービス	1,272	90.2	120	9.5	74.8
九州DTS	1,100	92.1	53	4.8	107.0
MIRUCA	408	103.8	16	4.2	21.4
アスタリクス	112	159.8	△19	-	[+34]

各社単体の数値であり、すべてを合計しても連結の数値とは一致しません。
 []は、当期金額－前期金額

成長に向けた取組み(下期)

■ SI体制の進展

- システムインフラ構築、ハード調達力
⇒ デジタルテクノロジー社とのシナジー推進
- 開発、運用プロセスの国際標準化
⇒ CMMILレベル5 パイロット適用開始
- オフショア体制
⇒ オフショア開発および現地企業向け開発
の活性化(DTS上海)
- 高度スキル人材の育成
⇒ 研修の高度化推進(開発上流工程、運用設計等)

成長に向けた取組み(下期)

■新規ビジネス

□ハウジングソリューション

⇒ バーチャル展示場(クラウド適用)、住宅履歴、
環境ビジネス(太陽光発電シュミレーション)

□金融機関向けソリューション

⇒ 営業支援パッケージ(融資提案、モバイルCRM)

□BIツール

⇒ 「データスタジオ@WEB Ver.2」の本格販売

□中堅中小向けSI

⇒ アドバイザリービジネスの本格展開

配当計画

配当額は、前期同額の年間35円を計画

